



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2017

No. 22 (2017年8月31日発行)

高1 SGH 地域フィールドワーク

2017年7月10日(月)の1~5限(1組)、7月14日(金)の1~4限(2~4組)に地域フィールドワークを実施しました。1~3組は地元佐野にあり、持続可能な社会に貢献している企業を見学し、4組は渡良瀬遊水地にて、郷土の偉人「田中正造」及び遊水地の治水や自然環境について学習しました。

「バイオマス発電を知る」(1年1組)

住友大阪セメントを見学させていただいた。建設廃材や間伐材を利用しバイオマス発電をしているとのこと、社会貢献度の高い企業であることを知った。



- 「セメント工場が循環型社会の構築に貢献している」ということを理解した。製造に1トンあたり566kgの廃棄物や副産物を使用していることには驚きました。セメント工場というCO₂を排出しているイメージでしたが、実際に訪れてみると環境への配慮を感じることができました。(大芦 さくら さん)
- 廃棄物などを利用したバイオマス発電では発電量の6割をセメント製造に使い、4割をFIXで売っているそうです。このシステムは日本の中では珍しいようで、私は自分の住んでいる地域にこのような会社があることがとても嬉しくなりました。(澁江 陽菜 さん)
- 廃材を利用し、環境に優しい活動を行っている上、小中学生の見学会を開いたり、地域のイベントに参加したりと色々な観点から社会貢献を行っている事がわかった。町民がもっと協力できるような企画があると、地域とのつながりがより強くなるのではないかと思います。(荒井 真優 さん)
- 持続可能な社会を実現するためのバイオマス発電は、規模が大きくて驚きました。騒音を防止する努力や工夫やイルミネーションの実施などの話を聞き、地域に根付いた会社であることを学びました。(大門 尚之将 さん)



「感動の吉川油脂」(1年2組)

生徒・教員共々、お話を聞き、感動の嵐でした。吉川油脂は、環境と人に優しい企業で、コンビニやファーストフード、家庭から出る油を回収・再生している点で環境に優しく、また従業員のうち20名は知的障害者の方々を雇用している点で人に優しい企業でした。

- 今まで知らなかった職業だったので、油のリサイクル、その後の活用法など様々なお話をしていただき、勉強になりました。「働くこと」への理念があり、志を持って仕事をする、リサイクルや障害者の方々の雇用など、社会へも貢献していて、感銘しました。(浦山 ひな さん)
- 一人ひとりの社員を大切に、思いやって働ける環境作りを目指しているということを知り、とても感動しました。障害者の方を雇用している理由と、佐野に本社を置き続ける理由を聞き、地元をいつまでも大切に思う気持ちが伝わりました。私も地元を大切にしていきたいです。お金よりも大切なことがあることを強く感じることができました。とても良い経験になりました。(若田部 亜季実 さん)
- 今回の見学を通して、廃食用の油が石けんや化粧品、飼料などに再利用されていることにもとても驚きました。回収されている油は企業や家庭だけでなく、賞味期限が切れたポテトチップスやマーガリンからも回収されています。また、吉川油脂は従業員が120人中20人が知的障害者だった、単身赴任を一切させないなど、家族を大切にしている会社だと思いました。今回の見学で学んだことを、今後の生活に活かしていきたいです。(須藤 彩 さん)



「地域資源を世界に生かす。アイデアの勝利。」(1年3組)

今回訪問した波里は米粉を作る地元企業です。米の新しい使い道を考案することで、日本人の米の消費量を増やし、水田景観を守り、会社の売上げも伸びる「三方良し」の理念があります。単なるボランティアと比べて、ビジネスという手法は持続的に社会貢献できる点で優れていると実感しました。



- 私の夢である管理栄養士にさらに興味の湧く内容だった。スポーツ×グルテンフリーについて研究できないか、チームに持ち帰って話し合いたいと強く思う。健康に良いチアシードも最近流行っているが、何気なくスーパーで買ったものが地元「波里」の商品と知って驚いた。安全管理も徹底していて、波里の商品は佐野から全国、やがて世界に広がっていくことを感じて、私達もグローバルリーダーを目指して佐野から全国、世界に広がっていけるようになりたいと思う。課題研究の良い切り口が得られた。(佐藤 望遙 さん)
- 私が住んでいる多田でも、年々田んぼが少なくなっている様子を目で見て実感していました。社会の授業で米の売上げの伸び悩みが原因と学びましたが、そういった地域の課題を解決するために海外に目を向けて解決策を見つけ、そして地域貢献にも結びつけているところが素晴らしいと思いました。また、世界に目を向けるだけでなく同時に地域に目を向けることも大切だと感じました。(新里 愛菜 さん)
- 社長の藤波さんから「アイデアはどこにでも転がっている」という言葉を聞いて自分もまだまだ頑張れると思いました。「美しい水田風景がなくなれば日本じゃない」という姿勢には感服しました。新しい可能性を探究し続ける理念をもとに今後も頑張っていきたいです。(佐々木 稜佳 さん)



「渡良瀬にて思う」(1年4組)

4組は、まず渡良瀬遊水地にて、宇都宮大学名誉教授の高際澄雄先生から田中正造や渡良瀬遊水地のお話を聞いた。正造が明治天皇に直訴する話や谷中湖がハート形になった理由などに耳を傾けていた。次に渡良瀬の歴史、治水、環境等の解説DVDを見て、谷中湖の自然の豊かさなどを知ることができた。その後、植物班、歴史班、昆虫班の3班に分かれ、実際に遊水地を歩き、観察や遺跡の散策などを行い。実際に、渡良瀬遊水地に触れ、思いを新たにしました。



- 世界中でもワタラセハンミョウモドキという渡良瀬遊水地でしか確認されたことのない昆虫もいるという事を知り、驚きました。人生で初めてスズメバチに近づくことができました。ハチの生態を知ったことによって、今まであったハチに対する恐怖心をなくすことができました。(小林 哲也 さん)
- 生まれて初めてハチに近寄り、間近で見ることができました。説明をしてくださった方の言う通り、声を上げず手を振るなどの行動をしないで、普段どおりいるとハチがこちらに攻撃的な態度をとるところか見向きもしませんでした。貴重な体験ができました。(大塚 涼平 さん)
- とても良い方向へ進んでいる中、大きく育ってしまったヨシを焼く以外にどのように活用していけるのかなどの課題も様々あるようで、これからSGHの活動をしていくにあたって、また、普段の生活でも少しでも考えて行かなければいけない、と思いました。栃木県のたくさんの誇りが詰まっている渡良瀬遊水地を、私たちの手で、もとに戻す、そしてよりよくできればいいなと思います。(三田 有紗 さん)

